

ひゅーまん〜ひと・あい・へいわ〜 フェスタ2007



総合司会
瀧 裕司 (FM三重)

【と き】 7月16日 (月・祝) 午前10時～午後4時
【と ころ】 県立ゆめドームうえの 第2競技場 (☎22-0590)

レディオキューブ FM三重



公開生放送

会場から
私たちの声を届けよう!

広瀬 隆の
スバラシ!

広瀬隆ひきいる
“めるへん堂”のミニライブあり

午後1時スタート

私たちの「平和への願い」をヒロシマに届けよう!

今年の夏、ヒロシマに私たちの気持ちを込めた「折り鶴」を届けます。会場に「折り鶴コーナー」を設けますので、ぜひご参加ください。当日、会場に出来上がった「折り鶴」をお持ちいただくのも大歓迎です。



7月10日まで、本庁・各支所でも折り鶴を受け付けますので、ご協力をお願いします。

行政ブース

- 本庁文化国際課、伊賀市国際交流協会、NPO法人伊賀の伝丸、伊賀日本語の会
〔啓発チラシ、啓発パネル展示、アンケート〕
- 本庁人権政策部・各支所、津地方法務局上野支局、上野人権擁護委員協議会
〔人権、平和メッセージ寄せ書き、人権・男女共同参画ミニクイズ、人権・男女共同参画啓発の取り組みパネル展示〕

出展 (店) ブース

- NPO法人ユニバーサルデザイン同夢
〔「ユニバーサルデザインで遊ぼう!」→パネル、商品、本展示「ひとにやさしいまちづくり」→冊子配布〕
- 手づくり工房あらくさ
〔手芸品、農産物、農産物加工品、パン、クッキー展示および販売〕
- きらめき工房
〔陶芸作品、さをり織り展示および販売〕
- アイ・コラボレーション伊賀
〔パソコンで作ろう! 暑中見舞い〕
- 伊賀市地域活動支援センターはあとハウスあおやま
〔ビーズ作品、財布、ブローチ、イヤリング、ペンダント、ペン立てなどの展示および販売〕
- 大山田反差別村民ネットワーク
〔啓発パネルの展示、啓発物品の展示・販売、子ども工作、皮革細工体験教室、子どもガラス細工体験〕
- 皇學館大学ヒューマンネットワーク
〔知的障がい者の「成長・発達する権利」「学習する権利」の保障、「大学の地域への貢献」を理念としたオープン・カレッジの紹介〕
- 緑・水・いのちを考える会島ヶ原
〔産業廃棄物の現況のパネル展示、安定5品目サンプル展示〕
- 伊賀市環境保全市民会議
〔伊賀市環境保全市民会議の活動紹介、「伊賀市のレッドデータブック」の展示・販売〕

食文化体験ブース

- きらめき工房 各200食販売
〔手づくりパン〕
- 有限責任中間法人伊賀コリアン協議会
〔チヂミ、韓国風のり巻き〕
- 部落解放同盟八幡支部
〔味ごはん (カスメシ)〕
- 伊賀タイ・ジブンの会
〔タイやきそば、バナナフライ〕
- 大山田反差別村民ネットワーク
〔ジュース、お茶〕



ひゅーまんフェスタ2007ではすべての人にやさしい会場づくりに努めています。手話通訳、託児が必要な方は会場受付でお申し付けください。専門スタッフが対応します。

【問い合わせ】 本庁人権政策課 ☎ 22-9631 FAX 22-9649 ✉ jinken@city.iga.lg.jp



三重県土砂災害防災訓練

昭和28年に東近畿大水害で大きな被害のあった鳥ヶ原地区で5月27日、土砂災害防災訓練が行われました。

訓練では、午前9時に大雨洪水警報が発令され、土砂災害発生予知監視システムの観測局で実効雨量が100mmを突破し、土砂災害警戒情報が発表されました。発表を受け直ちに、伊賀市指定避難所が開設され、指定避難所である鳥ヶ原中学校体育館近くに現地災害対策本部が設置されました。

赤バイ隊などが巡回に出動し、被害情報や一時立寄所（自主避難場所）の情報を災害対策本部へ報告しました。

河川の水位上昇や土石流・地すべりの前兆現象である山鳴りや井戸水の濁りが発生すると、午前11時に災害対策本部長である伊賀市長が「サイレンで地区の人に知らせてください」と避難勧告を発令しました。

鳥ヶ原地区に避難勧告を知らせる防災無線のサイレンが鳴り響くと、自主避難場所から指定避難所の鳥ヶ原中学校へ128人が避難しました。

避難訓練を終え、体育館では三重大学大学院・生物資源学研究科の林拙郎さんの土砂災害についての講演などが行われました。参加者は、土砂災害に対する防災意識を深めました。



親子でおやつ作り!

6月8日、鳥ヶ原老人福祉センター清流で、いきいき親子のふれあい教室が行われました。

今回は、親子でかぼちゃの白玉をつくりました。蒸かしたかぼちゃと白玉粉で団子を作り、きな粉をかけて食べました。

参加者の中には、普段食べない白玉を食べた、家でも作ってみたいと話す人もいました。



市民救命の駅 認定証交付式

6月5日、伊賀市消防本部で「市民救命の駅」認定証交付式が行われました。

市民救命の駅は、安心して暮らせるまちづくりの推進を目的に、市民の皆さんや観光客が不慮の事故や病気になったときに身近な場所で助けを求める場所として、認定することにしました。

今回は給油所や、金融機関、老人保健施設など24事業所・34店舗の賛同があり、山崎消防長から認定証とガーゼや三角巾などの応急手当用品が渡されました。

消防本部では、人口の1割を目標に普通救命講習を実施しています。また、救命の駅となる事業所も随時募集します。

